

1. さ日時	令和2年1月11日・12日
2. 場所	久留米アリーナ
3. 担当ゲーム・所感	【1日目】 担当ゲーム 女子1回戦 浅川(福岡2位)対菊陽 COLOURS(熊本1位) CC 山口健人氏(鹿児島B級) U1 吉村 <ゲームに対しての反省> 常に菊陽リードでの試合展開であった。どちらのチームにも際立ったビックマンはおらず、ガード陣が中心となってゲームを進めていた。カンファレンスの中では、プライマリの意識をしっかりと持つこと、お互いの見ている場所を把握しておくこと、1Qと2Qで選手が変わった時の判定基準を示すことが上がったが、互いに話をしていたことについては意識をして臨むことができた。ハーフタイムで互いのチームの気になるプレイについて確認をしたが、後半はそのプレイばかりに目がいってしまい、判定すべきプレイに対しての反応が遅くなってしまった。また、相手審判が取り上げたケースについて自分も同じように判定しなければならなかったと感じた。自分の判定に対しての自信のなさから笛の音が弱くなってしまう場面が2回あった(選手が笛に気づかず、プレイが続いてしまった)。県内での大会で自分の課題としているところ(プレゼンテーション、プライマリの意識、笛のふき方)は改善をしようと意識をして臨んだ。 IR より 萩尾 繁治氏(福岡A級) 笛の音が小さくて、選手が止まらない場面があったので、自信のないときほど堂々と笛をふいて、選手とアイコンタクトを取るとよい。自身がないということは、プレイを最初から見ることでできていないからなのではないか。右に行くタイミングをもっと考える必要がある。何を見に行くのか?どのプレイを見届けるのか?ということを明確に。ボールの移動に合わせて移動をしている印象がある。2人で10人をみるというBoxing-inの考えを頭に入れておくこと。Boxing-inできない原因としては、2人の距離が遠い(Tのポジションが高いことが多い)。ストロングサイドのドライブに対してはクロスステップを使うなどプレイがよく見える位置を探す工夫をするとよい。 【2日目】 担当ゲーム 女子交流戦 上津役(福岡1位)対都城東(宮崎2位) CC 吉村 U1 江上寛洋氏(熊本B級) <ゲームに対しての反省> 上津役が終始大きくリードをするゲーム展開であった。しかしどちらのチームも最後まであきらめずにゲームに臨んでいた。このゲームはCCであったが、自分自身、県内でもCCをする機会が少なく、どのようにカンファレンスを進めていけばよいのか、相手審判とコミュニケーションをとればよいのか、多くの勉強をすることができた。実際のゲームでは、CCとしてゲームをまとめなければならないという緊張から、特に前半でプレイの始まりを見て判定できない場面が何度かあった。また、ショット成功後にオールコートマンツーマンになったとき、ニューリードに早く入りすぎたため、アウトオブバウンズの判定が苦しくなった場面があった。カンファレンスの中で、タイマーの管理徹底についての話が出たので、タイムアウト中はゲームクロック、ショットクロック、点数等を必ず確認するようにしたので、スムーズにゲームを再開することができた。このゲームで、マン

	ツーマンの赤旗が上がり、自分の審判では初めての経験だったので、対処についても勉強になった。 IR から 篠原正則氏(福岡 B 級)、林佑亮氏(鹿児島 B 級) お互いに課題としていることを意識して臨んでいたのではないかと思います。特にゲームクロックに関しては常に意識をしてゲームを行っているということが伝わった。トレイルの位置取りはだいぶ低くなったが、まだプライマリでならしてもよい場面があったのではないかな。プレゼンテーションはもっとゆっくり、声を使うなどしてはっきりと示すとわかりやすい。全国ミニは 5 面とれる会場で行われるので、今の笛の強さだったらおそらく聞こえない。もっと強く、自信をもってふくこと。
4. 終わりに	今回、初めて九州大会に派遣をしていただきましたが、自分の課題が浮き彫りになった 2 日間でした。県内ではいつも笛の強さ、自信のなさが課題としてあげられているのですが、その課題点を克服するために、まずはしっかりとルール of 把握をすること、そして様々な情報を集めてゲームに生かすことが大切であると痛感しました。今回は、女子の決勝の際に IR と一緒に MTG をさせてもらって、さまざまな視点でゲームを学ぶことができました。 自分の課題を克服できるよう、まずは県内で研鑽を積んでいきたいと思います。 最後になりますが、今回の派遣に際しましてご配慮いただきました森田審判長をはじめ、ご指導くださった先生方、大会関係者各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。